

# オイスカ研修修了式 研修生スピーチ

平成 21 年 11 月 14 日(土)

ケニア：エイリーン さん トルコ：オズゲ さん



ご来賓の皆様、オイスカ会員の皆様、先生、研修生の皆さん、こんにちは。私達はケニアから来たエイリーンとトルコから来たオズゲです。今日は皆様に研修生を代表して、二人でご挨拶申し上げます。

オイスカの研修で私達が学んだことを、言葉で皆さんに話すのはとても難しいです。でも今から頑張ってお話したいと思います。

研修がスタートした時、小杉所長が「皆さんが一生懸命頑張ったら、桜の花が咲くように、たくさんの技術を学ぶことができます。最後までぜひ頑張ってください」と言いました。今研修が終わろうとしています。そうして私達は一週間後、国へ帰ります。今私達はふるさとで美しく咲くことができるように、準備をしている桜の花と同じです。

オイスカで、私達はもちろん農業の勉強をしました。でも、それだけではありません。私達は産業精神も学びました。私達は一人一人大切な子供達です。同じように神様の子供で、“母なる地球”の子供です。つまり、ここにいる皆さんの子供でもあります。そして兄弟でもあり、友達でもあります。

オイスカは“母なる地球”がもっているものを生み出す力について気付かせてくれました。そして私たちの中にある、幸せに生きるための隠れた力についても気付かせてくれました。

私達はマネージメントや規律、そして自己啓発を通して、地球をもっといい星にするために協力して働くという、同じ使命について学びました。私たちはリーダーとして成長するために頑張りました。

そしてオイスカは私たちの心の中に、優しさと美しさ、誠実さの種をまいてくれました。私たちは毎日朝早く起きて、点呼をして、掃除をしました。

民族や宗教や言葉の違いを乗り越えて、共に働きオイスカという屋根の下で一つの大きな家族の一員として勉強に励みました。

**裏面に続く**

私達はお互いに尊敬し、協力することを学びました。そして色々な日本の文化も学びました。このよ

うな機会を与えてくださって、オイスカに心から感謝します。

私達は調和のとれた中で一緒に楽しく生活しました。優しくていつも謙虚な先生方が困った時に助けてくださいました。もちろん難しい時もありました。

最初は色々なことにカルチャーショックを受けました。例えば、日本の食事、オイスカの生活スタイル、一日に二回の点呼、一緒に裸になって入るお風呂などです。

初めからたくさん難しいことがあって、慣れることができるか、本当に心配でした。国へ早く帰りたいと思ったこともありましたが、でもお陰様で私達はもっと強くて美しく、良い人になることができました。そして、今までよりもっと環境問題について考え、責任を持つようになりました。皆さんは世界中から来た、色々な考えや違いを持った私達のために、一生懸命頑張ってくださいました。毎日続いた田んぼや畑の草取りや、信じられないくらい暑いなかでの作業、大変でした。でもそんな厳しい環境の中で先生方は私達を一生懸命指導してくださいました。皆さんに育てられた私たちは、小波のように、世界中に少しずつ広がって小さいオイスカとして皆さんから学んだことを伝えていきます。

ここでの経験は私たちの人生でかけがえのないものになりました。ここで学んだ全てのことに感謝します。農業だけではなく、日本語も勉強しました。日本語は難しいですが、先生方は私たちが少しでも日本語を話すことができるように、本当によく教えてくださいました。

日本語の先生方、どうもありがとうございました。

私達はもうそろそろ国へ帰ります。心の中にみなさんの大きな愛と、精神、決意そして声を持って帰ります。みなさんがしてくださったこと全てに感謝します。オイスカは命を与えてくれました。私たちはこの命をたくさんの人に伝えます。なぜならオイスカが成功に導いてくれたからです。私たちはみんな困難に打ち勝つことができたのです！

時間が経つのはなんて早いのでしょうか。こんなにも早く色々なことが過ぎ去ってしまったなんて信じられません。貴重な月日はやってきてはあつという間に過ぎ去ってしまいます。

私達は皆さんからやらなければならないことを正しくやっていくことを学びました。そして今私達はさようならを言わなければなりません。

お世話になった地域の皆様、オイスカ会員の皆様、ボランティアで日本語や農業を教えてくださいました先生方、ホームステイでお世話になったお父さん、お母さん、いつも一緒に私達を支えてくださったオイスカの先生方、そして兄弟になった研修生の皆さん、本当にありがとうございました。

皆さんと一緒に過ごした時間は、私たちの宝物です。絶対に、忘れません。離れていても、私たちは家族です。心はいつも一緒にいることを、どうぞ忘れないで下さい。

\*原稿文は、英語。指導員が、日本語訳の手助けをして、日本語にてスピーチがなされました。